

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

2025年度

施設名	ポピンズナーサリースクール三鷹下連雀
施設所在地	三鷹市下連雀5-1-1プラウドシティ吉祥寺 E2
法人名	株式会社ポピンズエデュケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

心と力を育む和太鼓

<テーマの設定理由>

年長児は心身共に大きく成長し、友達と力を合わせて一つのことをやり遂げる経験を深める時期である。そこで本園では「音・リズムを体感する活動」を通して、楽器に興味を持ち工夫しようとする「主体性」、音や動きを揃えるために、友達と呼吸や気持ちを合わせようとする「協調性」、全身を使ってリズムを感じながら音を表現する「表現力」を育む活動に取り組んだ。音・リズムを体感できる様々な活動を繰り返し取り組む中で「できた」「楽しい」という実感を持ち、自分なりの表現を身に付ける経験や、達成感・自信の獲得をねらいとした。

2. 活動スケジュール

- ①三鷹阿波踊りを見学・体験し、地域の伝統やリズムに触れる。
- ②自作の太鼓を用いて音遊びを楽しみ、音を出すことへの興味・関心を高める。
- ③ダンスを通して全身を使う経験をし、リズム感を体で感じる力を育てる。
- ④ハンドベルを通して、リズムの正確さを身に付ける。周りの音を聴くことで、他者を意識する力が育つ。また、手首のスナップを利かせ、音をコントロールする力を身に付ける。
- ⑤和太鼓の練習に取り組み、楽器を大切に思いやりの気持ちを育てる。仲間と動きを合わせる経験へと繋げる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・初期…空き缶や箱、紙コップなど身近な素材を用いて自作の太鼓を製作する。自身で作ることにより愛着を持てるようにし、遊びの中で自由に音を出して楽しめる環境を整えた。叩く素材や場所による音の違いを感じられるよう、複数の素材を用意し、子どもが自ら選んで試せるようにした。
- ・中期…全身で表現することを楽しむ活動としてハンドベルやダンスを取り入れ、音のタイミングや強弱を視覚的・感覚的に捉えやすいようにした。
- ・後期…和太鼓の活動においては、安全に配慮した十分なスペースを確保すると共に、伸び伸びと友達の音や動きを感じ取れる配置とした。保育室に常時、太鼓を出しておき、自由に取り組めるようにし、お互いの意欲や姿勢、教え合えるよう配慮した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

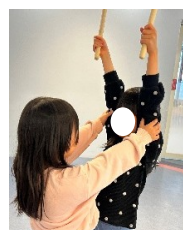
①初めての阿波踊り体験



②コップ・空き缶での音遊び



③ダンス、ハンドベルでの表現遊び



④クラス全員による和太鼓演奏

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①初めは、変わった動きや楽器の音の大きさに戸惑い、緊張した様子も見られたが、次第に笑顔で真似する姿が見られた。楽器の体験では「やってみたい人？」と問われると普段控えめなお子様も手を挙げ積極的に取組み、順番で体験するできた。「壊さないように」と自然と慎重になっており、大切に扱っていた。「真ん中を叩くと大きな音がする」「音が部屋中に響く」「結構力入れても大丈夫そう」など気付きを口にしていた。
- ②「ここを叩くと音が違う」「優しくすると小さい音になる」といった発見を楽しみながら、自分なりに試す姿が見られた。また、「こっちの方がいい音するよ」と友達同士で伝え合い、音の違いを共有する姿も見られた。繰り返し関わる中で、音の出し方を工夫したり、リズムをつけて叩こうとする姿へと繋がった。
- ③ダンスでは、体が自然と足踏みやジャンプをしたくなるBPM148程度の曲を選曲し、全身でリズムに乗ることをとても楽しめるようにしたところ、お子様達から「次は、ダンスしたい」とリクエストがあり、長時間求めるほど意欲的だった。ダンスが苦手なお子様にはできたことを丁寧に褒めることで自信をつけ、気付きや達成感に繋がった。ハンドベルでは、決まったタイミングで音を鳴らすリズムの正確さや、手首のスナップを利かせてから音が出るまでにタイムラグがある不思議さに気付き、戸惑いも見られた。
- ④和太鼓活動では、四分音符のリズムに当てはめる言葉遊びを楽しみ、段々とリズム感を獲得していた。自由遊び時間でも、太鼓を見ると「やりたい！」と近寄り音を鳴らしていた。ダンスを通して獲得した自然な体の動きや体幹、ハンドベルの演奏で体験した手首のスナップを利かせて音を鳴らす等を再現しながら取り組んでいた。いい音を鳴らすために、友達同士で教え合う姿も見られた。音に対し敏感になっていき、強弱の付け方を工夫するようになった。全員でのお辞儀の際には、お子様同士阿吽の呼吸でタイミングを計り、気持ちを合わせる意識が高まっている様子が見られた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

主体性：音・リズムを体感する様々な活動を通して、ダンス・リトミックのような動的活動が苦手なお子様、楽器演奏のような操作性のある活動が苦手なお様が、得意な能力を活かして苦手な部分に自ら積極的に取り組む姿が見られた。

また、得意な分野では皆のお手本になる役割を担うことによって、自信を持って取り組むこともできていた。どの活動においても「もっとやりたい」という発言が多くみられ、主体性を育むことができたと感じている。

和太鼓を常に保育室に出しておいたことで、苦手意識のあったお子さまも自ら太鼓を演奏する遊びを行い、友達が助言する姿が見られた。苦手な活動であっても、いつでも手に取れる環境設定をしておく大切さを保育者として再認識した。

協調性：様々な活動を通して、友達同士で「こうやると、できるよ」など助言し合う姿が見られた。自分の提案を通すだけでなく、友達の意見も取り入れる姿勢が培われ、保育者が指示しなくてもクラス全体でよりよくなる方法を考えられるようになった。また、活動期間中に定期的に年少児や保護者に披露する機会を設けたことで、目標が明確になり集中力も養われたと感じている。

表現力：曲調、テンポ、音の強弱からイメージを膨らませて、表現できるようになった。自分がイメージする「いい音」を鳴らすために、試行錯誤を繰り返したことで、楽器の操作性も滑らかになり表現力が向上した。

表情や姿勢も表現をする上で大切な要素であることにも気づき、楽器演奏、ダンス、劇、歌唱等、様々な活動で曲調や場面にあった、表情や姿勢を自分たちで考えて取り組むことができるようになった。

また、身近な物の音の響きに関心が高まり、就学に向けて午睡をせず過ごす時間帯に「この玩具は音が響くから、使わない方がいい」「こっちの玩具も響くけど、赤ちゃんの部屋までは聞こえないから使える」等、自分たちで使用する玩具や遊び方を考える姿も見られるようになった。